

「未来のぼくへ」

伊勢田フアイターズ 背番号5 浅貝瑛斗

これは、小学生最後の全国大会が終ったばかりの手紙だ。ぼくたちが全国大会に出るのは今回で五回目だったけど、ぼくはずっと補欠だった。ベンチから仲間がプレイする姿を見て「ぼくも試合に出て、あの場所で打席に立ちたい」と何度も思った。最後の全国大会は「絶対にスタメンで出る」ということを目標にして、ぼくは今までよりももっとと

練習をした。寒くて嫌な時も、手のマメが痛い時もあったけど、ぼくは全国大会で打席に立つ自分の姿を思いえがいてひたすら練習した。

そしておかえた神宮球場での全国大会。監督とくからスタメンの名前を呼ばれた瞬間、胸が熱くなつた。ぼくは力いっぱい大きな声で返事をした。

打席から見たグラウンドの景色は、今でも忘れられない。でも試合では、ヒットを打つこ